

## 第2回 子ども部会

開催日時 令和6年11月29日 金曜日 10時～12時

場所 オンライン (ZOOM)

参加者 塚本 石丸 友利 高橋

関川 (さんさん) 平原 (ベビーノ) 芳川 (メルディアウエルネス)

藤原 (ひまわりプロジェクトチーム) 阪口 (えがおさんさん)

障害児関係者ご家族 松井様 菅野様

事務局 武藤

### 協議会でのご意見

#### ☆障害児の子育てについて

・子どもを病院に連れていくにあたって福祉サービスのヘルパーを利用したいが、なかなか手配できない。ヘルパー側の予定と利用者側の予定がマッチングすることが難しく、何十社もかけて見つけても当日断られて結局親が仕事を休むことになることが多々ある。

・新宿区が他の区よりサービス供給量が少ないということはないが、登下校時はヘルパー需要が重なることが多い。突発的にサービスが必要になる人はなかなか難しい状況もあるが、恒常的に必要とわかる人はスケジュールを管理してサービスを利用してほしい。

・事業所としてはヘルパーが足りているとは言えない現状がある。需要が重なる時間帯は本当に対応が難しい。一人前のヘルパーを育成することは時間がかかるため、他社と協力しながらヘルパーのあたま数を揃え地域のニーズに応えられるようにしている。

・子どもの体調が変わって、子どものベッドが早急に必要になり日常生活用具の申請を相談したところ、障害等級を上げる必要があった。助言をもらったので手続きがうまくいったが等級変更にすごく時間がかかった。新宿区は対応が早いけど東京都が遅いのもう少し早くできるとありがたい。

・遠出をして泊りになった際、現地でヘルパーを雇わなくてはいけないことが多く、経済的に負担がかかる。特に子どものいる家庭では居宅以外の場所で福祉のサービスを利用しやすくしてほしい。

・ヘルパーは子どもの目線でサービスを提供していきたいと考えているが、どうしても親の意向にある程度従う必要が出てきてしまうところに葛藤がある。

・子どもが小さなころは親も若く、障害福祉サービスを利用して他人に頼むよりは親自身に対応した方が早いことが多い。しかし、子どもの成長とともに自分の手に負えなくなる

時がいつか必ず訪れる。必要になってから利用し始めるよりはヘルパーを利用する習慣を作った方が絶対良い。子どもが訪問学級を利用していたこともあり、親が横のつながりが持てず意見交換ができなかった。

- ・ヘルパーも人間なので信頼関係を作ることができれば家庭全体の支援がしやすくなる。ヘルパーと親とのコミュニケーションにトラブルがあったために、子どもに福祉サービスの提供ができる事業所がなくなってしまうということがある。

- ・今の親は他のサービスが充実しているのでヘルパーを使う経験が少ない。

- ・学校時代を離れると社会から断絶される。その後、障害者が社会に出ていける場があればいい。（児童分野と成人分野の連携が薄い。成人になってから利用できる福祉サービスの種類が限られている。成人になってから利用できる福祉サービスの情報が学校に通っている間に情報として入りにくい。）

- ・子どもの福祉サービス利用にあたってのセルフプランは、家族が考えているのが現状だが、相談支援専門員が入ったほうが第三者的なものになり効率化されていいと思う。親のニーズでスケジュールが決められている子どもを救うことができる。

- ・相談支援専門員も福祉サービス提供事業所職員も、さらに区役所職員も対応力がバラバラである。現在の区役所職員で信頼できる人と同程度に回答ができる人を育ててほしい。→研修だけで育つものでもなく、ケースをこなしながら身に着ける部分が大きく、時間がかかる。

- ・施設の空き情報などをみんなが分かる状態になっていると案内しやすい。